

第1回（仮称）新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン懇談会 会議概要

開催日時	令和3年10月18日(月曜日)14時から16時
開催場所	万代市民会館3階 307・308 研修室
出席者	【委員】 出席12名(欠席1名) 小沢謙一 委員、中村美香 委員、木山光 委員、田中健一 委員、高井俊幸 委員、 本間慎一 委員、肥田野正明 委員、三本和彦 委員、和田徹 委員、祢津知広 委員、 音瀬 肇委員、萩野正和 委員 【事務局】 都心のまちづくり担当理事、都市政策部長、都市政策部まちづくり推進課
報道機関	7社
会議内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 出席者紹介</p> <p>3. 議事内容</p> <p>(1)(仮称)新潟駅・万代地区周辺将来ビジョンについて ＜事務局より説明＞</p> <p>(2)新潟駅・万代地区周辺の歴史 ＜事務局より説明＞</p> <p>(3)新潟駅・万代地区周辺の現状 ＜事務局より説明＞</p> <p>(4)(仮称)新潟駅・万代地区周辺将来ビジョンのたたき台 ＜事務局より説明＞</p> <p>(5)意見交換</p> <p>【議事(1)～(4)についての主なご意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・将来像の前提を20年後に設定した理由はなにかあるか。短期中期の目標設定を考えていかなければいけないと思う。・20年後の社会の予測は難しい。6Gの世界、カーボンニュートラルがどれだけ進むかと合わせて、このエリアの役割を具体化していかなければならない。市民や事業者にどういう認識を持たせるかでこのまちのビジョンは変わってくる。そういった議論をみなさんとしていきたい。 →例えば5年、10年後を含めて長期的には20年後といった見方も提案していきたい。・他の地域では3～5年での更新を前提にして作るやり方もあるので、検討してみてはどうか。 <p>・新潟県の港湾計画によって街の姿が変わってくるように思う。今回、直接関係ないかもしれないがイベントとしてはかなり大きい出来事である。 →そのあたりを中はどう入れ込んでいくかは検討をする。</p> <p>・資料6で弁天通は夜の街というイメージが強いが、昼に営業している店舗も多い。現状認識が違</p>

うと導き出される結論が異なってくる。

・駅の中と万代は昼が中心で、駅前の飲食店は夜が中心。駅前の弁天、花園はカジュアル、古町はおもてなしと、飲食店でも役割分担がある。個性を深堀するほうが街としての力は出やすいと思う。弁天通商店街の総意としては飲み屋街としてやっていきたい。

・資料6で新潟駅がどういったコンセプトで開発されるかというのがまずあってしかるべきではないか。

→駅の整備計画も情報提供いただきながら進めていきたい。

・東大通、弁天、花園を一つのエリアとして考えたとき、一体感を持たせるには東大通の横断箇所が少ないので、一大スクランブル交差点にしてはどうか。そこをつなぐことで弁天、花園、東大通が一体となってイベントをすることもできる。

・東大通を「川」、横断歩道を「橋」と言っている。一方で、信濃川ではやすらぎ堤が拡張されてあれだけの活用があるので、東大通はそのような感じに近づいてもよい。

・新潟は食とお酒のまち。食がおいしければリピートしたくなる。新潟はそれを目指していくべき。

・このエリアでどんなプレイヤーがいてどんなアクションをしているのかという整理が今後あると良い。それによって将来像を実現するためのアクションにつながるし、このエリアはこんなアクションが足りないという話にもなるかもしれない。

【議事(5)萩野委員によるプレゼン】

・「まちづくり」のこれまでと現状、エリマネジメントとエリアプラットフォームについてご自身の取り組みを交えてご説明いただきました。

【議事(5)意見交換】

・どんなまちづくりをしていくかは、ハードだけではなく、大店法のような規制・緩和の動きも含めて考えていきたい。

・エリアの中でどういう人がどういう活動をしているか、丁寧に洗い出しをし、どういう可能性があり、どういうビジョンを描いているのかを聴きながらエリアの可能性を深堀することができれば、もっと新しいことができるのではないかな。

・移動、概念が変わる転換期に来ており、それをいかに正しくわかりやすく伝えるのか、それを忘れさせないように何回も伝える広報が大事。美しい絵だけを投げかけられても市民は我が事には感じられない。実感をもって自分も参加してやれそうだとされるような投げかけをしていきたい。

- ・問題点として老朽化しているビルが多い。都市再生緊急整備地域の指定もあり、再開発を加速させていくためには、このエリアの将来ビジョンを考えていかなければならない。
- ・弁天通商店街には、安心して来ていただいて、安心して通行できる街中が発展するという伝聞がある。2核の円滑な通行というものに重きをおいている。
- ・万代シテイ全体が危機感をもっており、個で生きていく時代ではなく、面で頑張っていかなければいけないという意識がある。
- ・まちづくり会社という話になった時に収支の折り合いがつかないところが、みなさん本音が話せないところ。もっと連携する意義を考えていかないとエリアプラットフォームやまちづくり会社にはつながっていかない。
- ・若い人が新潟に戻りたいと思えるようなまちづくりをしていくことが重要だと思う。そのためにはある程度都会化することが必要。若い人が戻ってくるようになれば民間も投資してくれると思う。
- ・新潟スポーツ公園でサッカー観戦者などに楽しんでもらえるような仕掛けをしているが、そこがゴールではなく、ビジョンとしては新潟駅・万代といった経済的に回っていくところとどう連携していくかを考えている。
- ・南口広場ができた当時、駅前広場でイベントができる仕組みはJR東日本管内では珍しい事例だった。しかし、そのときは運営の仕組みは作りきれなかった。そのときとは違い、時代やルールが変わってきてやれることが多くなってきている。駅を中心としたまちづくりを目指して頑張っていきたい。
- ・バスの運行者としてのまちづくりとの関わりは、駅や万代まで連れてくるのがメインになると思う。
- ・道路行政も変わってきている。「2040年道路の景色が変わる」というビジョンを公表しており、大きなテーマとして人中心の道路空間へということを掲げている。万代島ルート of 整備によって自動車の機能分担をしていくことが「にいがた2km」の賑わい創出の前提だと考えている。「にいがた2km」の国道7号はいろんな可能性を検討できる場所だと考えている。「ほこみち」制度は道路行政としても大きなターニングポイントだと思っている。
- ・福井の駅前や富山の広場など雪国でも賑わっているところはある。確信をもっているわけではないが、人が集まってくるポイントを分析したところ、バリアフリーと近いものがある。障がい者だけではなく、例えばベビーカーを押すお母さんなどが訪れやすいところは人が集まってくる。そうした視点を持って議論をできるとよい

・新潟にはプレイヤーが多くいる。プレイヤーの受け皿となる場所が必要。誰が何やっても許容されるような場所が室内でも屋外でもあるといい。

4. その他

○ 事務局より、今後のスケジュールについて説明いたしました。

5. 閉会